

トリニダード・トバゴ概況  
*Republic of Trinidad and Tobago*

2019 年 5 月

在トリニダード・トバゴ大使館

## 目 次

|      |                      |    |
|------|----------------------|----|
| I.   | 概観.....              | 4  |
| 1.   | 一般情報.....            | 5  |
| a.   | 面積・地勢.....           | 5  |
| b.   | 気候・風土.....           | 6  |
| c.   | 人口・人種・言語.....        | 6  |
| d.   | 国名・国旗・国歌.....        | 6  |
| e.   | 主要都市.....            | 6  |
| f.   | 社会.....              | 7  |
| g.   | 宗教.....              | 7  |
| h.   | 教育・福祉.....           | 7  |
| i.   | 芸術.....              | 8  |
| j.   | 文化・風俗・習慣.....        | 8  |
| k.   | 環境.....              | 8  |
| l.   | 保健・医療.....           | 8  |
| m.   | スポーツ.....            | 9  |
| 2.   | 歴史.....              | 9  |
| a.   | 独立前.....             | 9  |
| b.   | 独立後.....             | 10 |
| II.  | 政治と外交.....           | 11 |
| 1.   | 概観.....              | 12 |
| 2.   | 最近の政情.....           | 12 |
| 3.   | 立法.....              | 13 |
| 4.   | 政党.....              | 13 |
| 5.   | 行政.....              | 13 |
| a.   | 中央.....              | 13 |
| b.   | 地方.....              | 13 |
| 6.   | 司法.....              | 14 |
| 7.   | 防衛・安全保障.....         | 14 |
| 8.   | 外交.....              | 14 |
| III. | 経済.....              | 15 |
| 1.   | 概観.....              | 15 |
| 2.   | 近年のトリニダード・トバゴ経済..... | 15 |
| 3.   | 産業.....              | 17 |
| 4.   | 金融・財政.....           | 18 |
| 5.   | 経済統合.....            | 19 |

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| 6. 貿易.....                                | 20 |
| IV. 日本との関係 .....                          | 20 |
| 1. 政治・外交 .....                            | 20 |
| 2. 貿易.....                                | 21 |
| 3. 開発協力（研修員及び専門家については、2014 年度までの実績） ..... | 21 |
| 4. 要人往来.....                              | 21 |
| a. 来訪.....                                | 21 |
| b. 往訪.....                                | 22 |
| 5. 文化・人的交流.....                           | 22 |
| 6. 在留邦人 .....                             | 24 |
| V. 旅行者のために .....                          | 24 |
| 1. 時差.....                                | 24 |
| 2. 通貨・両替 .....                            | 24 |
| 3. 税金・チップ.....                            | 24 |
| 4. 電話.....                                | 24 |
| 5. 電圧・プラグ・水道 .....                        | 25 |
| 6. 2017年の祝祭日 .....                        | 25 |
| 7. 交通事情.....                              | 25 |
| a. 陸路.....                                | 25 |
| ● タクシー.....                               | 26 |
| ● マキシー・タクシー .....                         | 26 |
| ● バス .....                                | 26 |
| b. 海路.....                                | 26 |
| c. 空路.....                                | 26 |
| 8. 治安.....                                | 26 |
| VI. 観光 .....                              | 27 |
| 1. ポートオブスペイン市内観光 .....                    | 27 |
| 2. エクスカーション.....                          | 28 |
| a. トリニダード島 .....                          | 28 |
| b. トバゴ島.....                              | 29 |
| VII. 宿泊 .....                             | 30 |
| 1. 一般事情.....                              | 30 |
| 2. ホテルリスト.....                            | 30 |
| IX. トリニダード・トバゴに関するウェブサイト（英語） .....        | 31 |
| X. 主要電話番号.....                            | 31 |
| 付録.....                                   | 32 |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| トリニダード・トバゴ閣僚名簿.....   | 32 |
| ■ トリニダード・トバゴ地図.....   | 35 |
| ■ ポートオブスペイン地図 .....   | 36 |
| ■ 当館管轄国と日本の貿易関係 ..... | 37 |

（注）この資料に掲載された情報は 2018 年 8 月の時点で調査したものです。旅行等に必要な情報はあらかじめお調べの上お出かけ下さい。

## I. 概観

トリニダード・トバゴは2つの島で構成される民主主義共和国で、カリブ群島の南端に位置します。ハリケーン・ベルトからは少し外れており、南米大陸に一番近いベネズエラの海岸線からわずか10kmのところに位置します。

かつてはイギリスの植民地で、公用語の英語を約137万人の国民が使用しています。トリニダード・トバゴの英語は語尾がやや尻上がりで独特のアクセントがあります。国民のルーツはアフリカをはじめ、インド、ヨーロッパ、地中海沿岸、中東、中国と多岐に渡っています。紀元前、南米からやってきたアメリンディアンがトリニダード島に定住するようになり、そこへ1498年インド航路を探していたコロンブスが到着しました。その後フランス人やスペイン人、オランダ人が入ってくるようになり、やがてイギリスの植民地になりました。特にトバゴ島では過去31回もの奪い合いが繰り返されました。1889年、砂糖を中心としたトバゴ経済が破綻すると、イギリス植民省がこれをトリニダードに併合し、統一国家としてのトリニダード・トバゴが形成されました。1962年8月31日にイギリスから独立した後、トリニダード・トバゴは、ウェストミンスター型の議会制民主主義に基づいて国家運営がなされ、1976年9月には英連邦の一員として大統領を元首とする共和国になりました。

植民地時代に砂糖等のプランテーションの労働力として多数のアフリカ系黒人が奴隷として連れてこられ、奴隷解放後も多数のインド人をはじめ、マディラ諸島のポルトガル人、中国人、レバノン人、シリア人等が移住して労働に従事してきたため、この国の人種構成は大変バラエティーに富み、特にトリニダード島の住民は国際色豊かなものになっています。宗教面でもトリニダード島はカトリックやイスラム教等が混在し多様である一方、トバゴ島の住民は、主にアフリカ系黒人で伝統的にプロテスタントが多く、他のカリブ諸国と共通性が見られます。

この国は、音楽と祭りの国でもあり、カリプソ、ソカ、スティール・パンの発祥地でもあります。毎年2月頃開催されるカーニバルの際には国全体が熱気で包まれ、まさに、強烈な生命力に満ちた文化のるつぼといった様相を呈します。

トリニダード・トバゴ経済は、産油国として他のカリブ諸国には見られない好条件に恵まれ、比較的有利な石油価格の推移と好調な天然ガス輸出により、エネルギー産業の発展、域内投資と金融活動の進展、さらにはエネルギー関連の諸外国からの投資も伴い順調に発展を遂げてきましたが、最近の石油価格の低迷が経済情勢の悪化をもたらしています。慢性的な貧困層も多く、国内的には雇用創出、犯罪、汚職、教育、保健（エイズ対策を含む）等に対する取り組みが課題になっています。

国際的には、グローバリゼーションは不可逆との認識の下、他のカリブ諸国と連帯して、WTOやFTAA（汎アメリカ自由貿易協定）交渉等において、小規模島嶼国の脆弱性を背景に「特別かつ差異のある待遇」を求めるとともに、自らもカリコム（カリブ共同体）単一市場・経済の実現を目指して努力を続けています。

## 1. 一般情報

|               | トリニダード・トバゴ                                                                                                                                          | 日 本                                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 面 積           | 約 5,130 k m <sup>2</sup><br>(トリニダード島 約 4,828 k m <sup>2</sup> , トバゴ島 約 300 k m <sup>2</sup> ) <sup>ii</sup>                                         | 373,907 k m <sup>2</sup>                                                |
| 位 置           | 北緯 10 度 2 分～11 度 12 分<br>西経 60 度 30 分～61 度 56 分                                                                                                     | 東経 123～154 度<br>北緯 20～ 46 度                                             |
| 時 差           | 日本との時差は－13 時間                                                                                                                                       |                                                                         |
| 気 候           | 熱帯海洋性<br>乾期：1～5 月, 雨期：6～12 月<br>年平均気温：27.2℃ (2018 年) <sup>iii</sup><br>年間降水量：1810.40 mm (2018 年) <sup>iv</sup>                                      | (東京) (2016 年) <sup>v</sup><br>8 月: 26.4℃, 1 月: 4.7℃<br>年間降雨量: 1445.5 mm |
| 人 口           | 1,369,125 人 (2017 年) <sup>vi</sup><br>人口増加率：0.66% (2017 年) <sup>vii</sup><br>人種構成：アフリカ系 34.2%<br>インド系 35.4%<br>混血 23.0%<br>その他 7.5% <sup>viii</sup> | 1 億 2,693.3 万人<br>(2016 年 10 月) <sup>ix</sup>                           |
| 一人当たり GDP／GNI | 1 人当たり GDP (米ドル) 15350.90 (2017)<br>1 人当たり GNI 15,340.0 (2017)                                                                                      |                                                                         |
| 主要言語          | 英 語                                                                                                                                                 |                                                                         |
| 宗 教           | キリスト教<br>プロテスタント 32.1% (うち英国国教会 5.7%)<br>ローマ・カトリック 21.6%<br>ヒンズー教 18.2%<br>イスラム教 5.0% 他 <sup>x</sup>                                                |                                                                         |
| その他           | 首 都：ポートオブスペイン<br>国際空港：〔トリニダード〕ピアルコ空港<br>〔トバゴ〕 クラウン・ポイント空港<br>最 高 峰：セロデルアリポ (Cerro del Aripo) 山 (966m)                                               |                                                                         |

### a. 面積・地勢

トリニダード・トバゴは総面積が約 5, 130 k m<sup>2</sup>で、千葉県の面積にほぼ等しい島国です。カリブ群島の最南端に位置し、南米大陸に一番近いベネズエラの海岸線からはわずか 10 km しか離れて

<sup>i</sup> The World Bank : <http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

<sup>ii</sup> トリニダード・トバゴ政府 : <http://ttconnect.gov.tt/>

<sup>iii</sup> World Weather Online : <https://www.worldweatheronline.com/port-of-spain-weather-averages/port-of-spain/tt.aspx>

<sup>iv</sup> World Weather Online : <https://www.worldweatheronline.com/port-of-spain-weather-averages/port-of-spain/tt.aspx>

<sup>v</sup> 気象庁 :

[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s1.php?prec\\_no=44&block\\_no=47662&year=2016&month=&day=&view=](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=44&block_no=47662&year=2016&month=&day=&view=)

<sup>vi</sup> The World Bank : <http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

<sup>vii</sup> The World Bank : <http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

<sup>viii</sup> CIA, The World Factbook : <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/td.html>

<sup>ix</sup> 総務省統計局 : <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

<sup>x</sup> CIA, The World Factbook : <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/td.html>

いません。トバゴ島は、トリニダード島から北東に直近で約33キロのところに位置しています。

トリニダード島の大半は平野・湿地帯、トバゴ島は、島の北東から中央部にかけて山脈が走り、島の南西端近くには美しいブッコー・リーフ（Buccoo Reef）があります。

#### b. 気候・風土

熱帯に位置し、高温多湿で、1年の気候を大別すると乾期（1月～5月）と雨期（6月～12月）に分けられます。乾期は概して晴天が多い一方、雨期は連日のごとく激しいスコールがあり、年間の雨量は1810.40ミリ（2018年）に達します。他のカリブ諸国と異なりハリケーン・ベルトからはややはずれているため、6月から11月のハリケーン・シーズンも当地ではそれほど恐れることはありません。トリニダード・トバゴで最も過ごしやすい時期は12月～3月頃であり、1年を通じて最高気温は29.8～32℃、最低気温は21.1～24.1℃、年平均26.5℃、湿度は年平均81%です（2018年）。

#### c. 人口・人種・言語

トリニダード・トバゴの総人口は約137万人で、民族構成は国の歴史を反映して多様であり、アフリカ系とインド系人種が各35%程、23%が混血、残りがヨーロッパ系、中国系で構成されています。公用語は英語です。

#### d. 国名・国旗・国歌

【国名】トリニダード島の名前は、コロンブスが同島を「発見」した際に名付けたもので、三位一体を意味するスペイン語に由来します。トバゴ島の名前の語源は不明ですが、先住民や後に入植者が栽培していたタバコに由来するとの説が有力です。

##### 【国旗】



国民の活力と太陽の熱気やエネルギーを象徴する赤色の基調の上に、左上方からは白で縁取りされた黒の対角線が走っています。黒は力・団結・国の富を表し、白は国を取り巻く海を象徴しています。1962年の独立の際に国民のアイデアを取り入れ採択されました。

【国歌】1962年の独立に際し、Patrick Castagnelにより作詞・作曲されたもので、「文化・宗教を異にする国民がカリブ海の島で神の恵みの下、同等の権利を享受する」旨を勇壮に歌い上げています。

#### e. 主要都市

トリニダード・トバゴの首都ポート・オブ・スペインは、1757年当時のスペイン総督 Don Pedro de la Moneda の指揮の下で建設され、豊かな天然資源と港湾建設に適した地理的条件を理由に、1774年首都になりました。地名が「スペインの港」と訳されるとおり、トリニダード・トバゴが

スペインの植民地であったことを示しており、また、スペイン及び英国の植民地であった歴史を反映して、往時をしのばせる建造物などが今も残っています。その他の都市としては南部の工業都市サン・フェルナンド（San Fernando）等があります。

トバゴ島の最大都市はスカーボロー（Scarborough）です。

国際空港は各島1つずつあり、トリニダード島はピアルコ国際空港（ポートオブスペインから約27km）、トバゴ島はクラウン・ポイント国際空港（スカーボローから約10km）です。

#### **f. 社会**

コロンブスによる「発見」以後1834年の奴隷解放の間までは、白人、混血、黒人から成るいわゆるクレオール社会が確立されていました。奴隷解放後は、インド人を中心に中国人、ポルトガル人、シリア人等が契約労働者として流入してきました。これらの諸民族は、その歴史、言語、宗教、思想、皮膚の色、社会環境など、多くの点が異なっており、その影響から今日のトリニダード社会は、これらの諸要素が複雑に交錯する複合民族国家となっています。そうした中でアフリカ系奴隷の末裔である黒人、欧州人移住者の子孫である白人、契約労働者として移住してきたインド人の子孫の3つのグループが社会の基本的な性格を形成しています。

#### **g. 宗教**

トリニダードの宗教はキリスト教が大半であり、中でも長いスペイン統治の影響でローマ・カトリック（21.6%）が最も多く、その後の英国統治の影響による英国国教（5.7%）も広く普及しています。その他、インド系住民にはヒンズー教徒（18.2%）が多く見受けられます。イスラム教徒（5.0%）としては、インド系イスラム教徒の子孫および60年代の米国黒人運動に影響を受けたブラック・ムスリムが存在します。

トバゴ島の住民は、主にアフリカ系黒人で伝統的にプロテスタントが多く、他のカリブ諸国と共通性が見られます。

#### **h. 教育・福祉**

英国に倣った教育制度で、比較的高い教育水準を誇っています。6歳からの初等教育6年間は義務教育で、公立校は初等教育と中等教育は無償で提供されています。

総合大学は西インド諸島大学（University of the West Indies）のセント・オーガスティン（St. Augustine）校、南カリブ大学（University of the Southern Caribbean）及びトリニダード・トバゴ大学（University of Trinidad and Tobago）がありますが、他にも各種専門学校、職業訓練校が存在します。

成人識字率は99%（2015）と推定されています。

トリニダード・トバゴが輩出した著名な文化人としては、2001年にノーベル文学賞を受賞した作家V. S. ナイポール（V. S. Naipaul）、歴史家としても著名であった初代首相エリック・ウィリアムズ（Eric Williams）、歴史・思想家であるC. L. R. ジェームズ（C. L. R. James）、小説家マイケル・



アンソニー（Michael Anthony）などが挙げられます。

#### **i. 芸術**

トリニダード・トバゴを発祥の地とするソカ、カリブソ音楽とスティール・パンは世界的に有名であり、同国出身のアーティストが海外でも活躍しています。スティール・パンは1930年代から始められたと言われていますが、極めて短期間でこれほど世界に知れ渡った音楽も珍しいのではないのでしょうか。ドラム缶を輪切りにした簡単な楽器から放たれる音量と音域は、聞く者を陶酔させずにはおきません。

カリブソは約200年の歴史を持ち、アフリカで生まれたリズムに乗ってカリブソニアンの中から歌い出される鋭い社会風刺は、そのメロディーとは対照的で、切実かつ辛辣です。

Ash Wednesday の前の2日間にアップテンポなソカのメロディーに合わせて老若男女が踊り狂うカーニバルは国を挙げての祭典であり、多くの観光客を魅了しています。絢爛なカーニバル衣装も有名であり、カーニバル衣装のデザイナーであるピーター・ミンシャル（Peter Minshall）は1996年アトランタ五輪開会式の衣装デザインを担当するなど、国際舞台でも活躍しています。

インド系社会では、上記のようなアフロ・クレオール文化への完全な同化を拒む者も多く、インドの伝統芸術や音楽も世代を越えて継承されています。

#### **j. 文化・風俗・習慣**

トリニダード・トバゴは多様な人種を有していますが、法制度、教育、儀礼などには旧宗主国英国の影響が色濃く残っています。他方で、アフリカ系、インド系、中国系、シリア系、ポルトガル系など様々な文化要素も加味され、非常に豊かな多文化国家を形成しています。

複合民族国家であるため、各民族に対応して様々な宗教行事、風俗、社会習慣が存在します。キリスト教、ヒンズー教、イスラム教の祝日がいずれも休日に指定されるなど、文化の多様性を尊重する配慮が払われています。フォーマルな席では服装・マナーともにヨーロッパ式が要求されますが、アフリカ系、インド系、イスラム系の民族衣装で登場することも珍しくありません。食事もクレオール料理、インド料理、中華料理、アラブ料理、西欧料理などがあり大変バラエティーに富んでいます。

#### **k. 環境**

国土が小さい上にエネルギー関連を中心とした工業化が進んでいるため、河川・海洋の水質汚染、森林破壊、珊瑚礁の浸食等が問題になっています。環境問題への関心の高まりを受け、1995年に環境管理法（Environment Management Act）が成立し、統合的に環境対策を行う環境庁（Environmental Management Authority）が創設されました。

#### **l. 保健・医療**

一般的な怪我や病気に関しての医療水準は高く、薬品も容易に入手できます。ポート・オブ・

スペインとサン・フェルナンドには国立総合病院があり、無料で国民が医療を受けられるシステムになっていますが、いつも超満員であり治療が行き届かないという欠点があります。難病や難しい手術は、米国やカナダなどの先進国に受けに行く人が多いようです。

一部地域ではデング熱が流行することがあり、2008～2009年は6年毎に流行するその周期に当たると言われました。HIV/AIDS 問題については正確な統計はありませんが、カリブ地域はサハラ以南アフリカに次いでエイズ罹患率が高い地域であり、トリニダード・トバゴも例外ではないとされています。

### m. スポーツ

スポーツは、英連邦の一員であるだけに、クリケットや競馬が盛んです。世界的に有名なクリケット選手としては、個人最多得点の世界記録保持者であるブライアン・ララ (Brian Lara) がおり、国民的ヒーローとなっています。近年はサッカーがクリケットと並んで最も人気のあるスポーツの地位を占めてきています。英国マンチェスター・ユナイテッドで活躍していたことでも有名なサッカー選手ドワイト・ヨーク (Dwight Yorke) 率いるナショナル・チームは、2006年にドイツで開催されたワールドカップへの切符を初めて手にしました。また、2006年のキリンチャレンジカップでは、TT代表と日本代表との間でサッカーの試合が行われました (日本代表の勝利)。2019年6月5日に日本で両国代表の試合が開催される。トリニダード・トバゴは陸上競技にも強く、独立後最初に参加したオリンピックである1964年東京五輪でウェンデル・モトリーが400mで銀メダルを獲得し、合計銀メダル1、銅メダル2という成果を挙げました。1996年アトランタ五輪で銅メダルを2つ、2000年シドニー五輪で銀メダルと銅メダルを獲得した陸上選手アト・ボルドン (Ato Boldon) を筆頭に、2005年の世界陸上では男子4×100mリレーで銀メダルを獲得しています。また、2004年アテネ五輪ではジョージ・ボベル (George Bovell) が水泳競技ではカリブ地域初の銅メダルを獲得しました。なお、2008年北京オリンピックでは、リチャード・トンブソンが100m走で銀メダルを獲得し、400mリレーでも同国は銀メダルを獲得しています。2012年のロンドンオリンピックでは、ケショーン・ウォルコット選手がやり投げで金メダルを獲得し、その他の競技でも3つの銅メダルを獲得しました。2019年5月の横浜での国際リレー大会で、男子4×400mリレーで優勝しました。

## 2. 歴史

### a. 独立前

コロンブスによる「発見」まで、トリニダード島では、紀元前に南米からやってきたアメリカンディアンが定住していました。そこに1498年7月31日、コロンブスの第3回航海により発見され、スペイン領になりました。1802年のアミアン条約によってイギリス領となつてからは砂糖産業の導入等により島は急速に発展しました。トバゴ島は、トリニダード島に遅れること約100年の1596年に発見され、その後約2世紀に亘り、オランダ、イギリス、フランス等の占領下にありましたが、1814年のパリ条約によって正式にイギリスに割譲されました。トリニ

ダード・トバゴは占領の歴史であり、特にトバゴ島では過去31回もの奪い合いが繰り返されました。

両島における砂糖園経営のために多くのアフリカ人奴隷が導入されましたが、1834年奴隷制が廃止された後、インド人、中国人、自由なアフリカ人などが続々と契約労働者として流入したため、人口も急増しました。1889年、砂糖を中心としたトバゴ経済が破綻すると、4月6日、両島は合併され、英国植民地トリニダード・トバゴとなりました。その後英領カリブ諸島に起こった自治権拡大の要求がトリニダード・トバゴにも波及し、1925年には立法院に選出議員が送られ、1946年に普通選挙を、1950年に責任内閣制度を導入し、1956年に自治領となりました。さらに1959年に議員内閣制度を導入、1961年に二院制議会が成立し、1962年8月31日独立国になりました。

## **b. 独立後**

1962年8月31日にイギリスから独立した後、トリニダード・トバゴは、ウェストミンスター型の議会制民主主義に基づいて国家運営がなされ、1976年9月には英連邦の一員として大統領を元首とする共和国になりました。独立後は、エリック・ウィリアムズ首相の強力な指導力の下、人民国家運動（PNM）が長期にわたって政権を維持しましたが、1981年にウィリアムズ首相が死去するとともに、石油価格の低迷と財政赤字の拡大により経済が低迷し、国民の間にも次第に PNM 離れが進みました。1986年に反 PNM 連合である国家再建連合党（NAR）が総選挙で地滑りの勝利を収め、PNM 長期政権に終止符を打ちました。しかし、その後 NAR は分裂し、また IMF の指導の下で行われた構造改革が経済の停滞を招いたため、次第に苦況に立たされるようになりました。1990年にはイスラム教徒過激派が国会議事堂を占拠し首相等を人質にとるクーデター未遂事件も発生しました。

1991年の総選挙では PNM が再び政権に返り咲き、NAR 政権が着手した構造改革を引き継ぎ、経済自由化、国営企業の民営化、公的部門の人員削減、変動為替相場制への移行を進めましたが、失業者の増加や物価上昇を招き、国民の不満をつのらせました。1995年の総選挙で、PNM はインド系新党の統一国民会議（UNC）と NAR の連合に政権の座を譲ることとなり、パンディ UNC 党首がインド系では当国史上初めての首相に就任しました。

好調な経済を背景にその実行力が評価されたパンディ政権ではありましたが、他方で汚職の噂が絶えず、2000年12月の総選挙では政治腐敗が争点になりました。結局は、経済的実績を強調する UNC が単独過半数を獲得し、第二次パンディ政権が発足しました。しかしながら、選挙不正疑惑や汚職疑惑が次々と浮上し、さらには与党内で政府の不十分な汚職対策や党内での処遇に不満を抱くグループが造反、党は分裂し、パンディ首相はわずか1年で解散総選挙実施を余儀なくされました。

2001年12月に行われた総選挙では、UNC と PNM が議席を半々に分け合う結果になり、両党は権力共有を含む協定を結び、首相の選出は大統領に一任することで合意しました。しかし、野党 PNM 党首が首相に任命されたことに UNC は反発し、与野党合意を破棄しました。2002年4月には与野党の対立から国会が停会になり、政治的膠着状態が続きましたが、2002年10月、

再度総選挙が行われ、PNM が 20 議席（UNC 16 議席）を獲得し、膠着状態に終止符が打たれました。

2002 年から 2010 年 5 月末まで政権を担当したマニング首相率いる PNM は、この期間、石油・天然ガスのエネルギー産業を主とする国内経済が好況であったことを背景に、低所得者向け住宅の建設、国内警備の強化、教育部門の強化及び医療政策の充実化等、安定した政権運営を行いました。2007 年 11 月に行われた総選挙の前には、高インフレ率及び国内の治安の悪化、マニング首相による司法に対する介入問題及び閣僚のスキャンダル疑惑に加え、PNM 内でも、閣僚を含む古参の実力党員が総選挙の立候補者名簿から漏れたことについてマニング首相に不満を表明する等、不安定要因が取り沙汰されましたが、手堅い政権運営が評価されたことと、野党勢力が内部抗争により弱体化していたことにも助けられ、総選挙では、議会の過半数をしめる 26 議席（総議席 41）を獲得し安定した権力基盤を確立しました。また、野党 UNC は新政党で比較的高い前評判を有していた人民会議党（COP）とは最後まで連立せず、選挙の結果 COP は議席を得ることができませんでした。（最近の政情に関してはⅡ－2「最近の政情」を参照してください。）

## II. 政治と外交

|       |                                                                                                                                                         |                |                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 独立年月日 | 1962年8月31日                                                                                                                                              |                |                                                                       |
| 政 体   | 大統領を元首とする共和制<br>現大統領：ポーラ＝メイ・ウィークス大統領<br>Her Excellency Paula-Mae WEEKES<br>(任期5年，法律上再選可)                                                                |                |                                                                       |
| 立 法 府 | 上 院                                                                                                                                                     |                | 下 院                                                                   |
| 議席数   | 31議席                                                                                                                                                    |                | 41議席                                                                  |
| 任期    | 5 年                                                                                                                                                     |                |                                                                       |
| 政党議席数 | 首相が16名，野党代表が6名を推薦し大統領によって任命，9名は各界代表から大統領により任命。                                                                                                          |                | 人民国家運動(PNM) 23<br>人民のパートナーシップ (PP：連立) 18<br><br>直接選挙によって各選挙区から1名ずつ選出。 |
| 主要政党  | 人民国家運動 (PNM)<br>統一国民会議 (UNC)<br>人民会議(COP)                                                                                                               | 党首<br>党首<br>党首 | キース・ローリー<br>カムラ・パサード＝ビセッサー<br>キャロリン・シーパサード＝バチャン                       |
| 行 政 府 | 【中央】議院内閣制<br>下院優位制<br>【地方】地方自治<br>トバゴにはトバゴ議会を設置                                                                                                         |                |                                                                       |
| 司法制度  | ・ 治安判事裁判所 (Magistracy)<br>・ 高等裁判所 (High Court of Justice)<br>・ 控訴裁判所 (Court of Appeal)<br>・ 最高裁判所 (Supreme Court of Justice)<br>・ 英国枢密院 (Privy Council) |                |                                                                       |

## 1. 概観

政治制度は旧宗主国であるイギリスの伝統を取り入れ、議院内閣制や小選挙区制を特徴とするいわゆるウェストミンスター制が採られています。ただし、1976年の共和制の移行に伴い、英国女王に代わる国家元首として大統領が国会議員により選出されています。

トリニダード・トバゴ政治の特徴は、貧富の格差という社会経済的亀裂に加え、二大民族グループであるアフリカ系とインド系の確執が存在することです。アフリカ系が支配的な PNM の 長期政権下でインド系政党は従属的な地位に甘んじていましたが、インド系の社会進出が進むにつれ、政界でもインド系指導者が躍進するようになり、1995年には初のインド系首相が誕生しました。こうした社会構造の流動化を反映して、現在アフリカ系とインド系をそれぞれ支持基盤とする二大 政党が熾烈な争いを展開していますが、それは政治レベルでの確執であり、エスニック・グループ間の暴力沙汰に発展することではなく、それぞれのグループが平和に共存している状態です。

## 2. 最近の政情

独立前の1956年以来、アフリカ系の PNM が長期安定政権を維持していましたが、1986年の総選挙において、ロビンソン党首率いる国家再建連合党（NAR）が勝利を収めました。その後、1991年の総選挙では、マニング党首率いる PNM が政権に返り咲いたものの、PNM は1995年11月の総選挙において過半数を獲得することができず、UNC と NAR の連立政権が誕生し、パンディ UNC 党首がインド系として初めて首相に就任しました。2000年12月の総選挙では与党が勝利したものの、与党候補の二重国籍問題の浮上や落選者の閣僚任命を巡り、大統領と首相の対立が表面化したため、2001年12月に総選挙の実施を余儀なくされました。UNC と野党 PNM は同数の18議席を獲得しましたが、ロビンソン大統領が PNM のマニング党首を首相に任命したため、野党に転じた UNC と PNM の関係が悪化し、国会が機能停止状態に追い込まれました。2002年10月、政局打開のために改めて実施された総選挙の結果、PNM が勝利し、マニング PNM 党首が首相に再任されました。2007年11月の総選挙においても PNM が勝利し、マニング政権が継続しました。2010年4月、マニング首相は、任期満了まで約2年半を残して議会を解散、5月24日に総選挙を実施しました。その結果、UNC 及び COP を始めとする野党連合の人民のパートナーシップ（PP）が41議席中29議席を獲得し圧勝、約10年ぶりの政権交代が実現するとともに、初の女性首相（パサード＝ビセッサ首相）が誕生しました。PP はインフラ開発や教育等の分野で実績を挙げましたが、相次ぐ閣僚のスキャンダルとこれに起因する内閣改造や与党内不和、さらに汚職疑惑により、国民の不信感や失望感を高め、2015年9月の総選挙では、ローリー党首率いる PNM が23議席を獲得し、5年ぶりに政権に復帰しました。ローリー新政権は、トリニダード・トバゴ経済の主要な外貨収入源である原油・天然ガス部門の低迷に対応するため、（1）政府支出の7%カット、（2）「安定化基金」の使用による対外債務増加の防止、（3）民間資金の活用による住宅建設の促進、（4）税制改正、（5）弱者対策の維持を主とする財政の緊縮及び外貨の節約を伴

う経済・財政政策の調整を実施する旨表明しています。低迷するエネルギー産業を含む経済立て直しと治安の改善が喫緊の課題です。2019年に入り、与野党とも2020年の総選挙に向けて次第に活動が活発化してきております。

2018年3月、トリニダード・トバゴ初の女性大統領として、ポーラ＝メイ・ウィークス大統領が就任しました。

### 3. 立法

議会は二院制で上下両院から成っています。上院に実質的な権限はほぼなく、下院優勢の制度です。議席数は上院が31議席、下院が41議席です。上院議員は任命制で、31名中16名は首相の推薦、6名は野党代表の推薦、残りの9名は経済、社会、公共団体等各界代表の中から大統領によって任命されます。下院議員は、18歳以上の国民による直接選挙で41の選挙区から各1名が選出されます。任期は上下両院ともに5年で、下院には解散があります。

### 4. 政党

現在のトリニダード・トバゴの政党は、アフリカ系を支持基盤とするPNMとインド系を支持基盤とするUNCの二大政党になっています。

- 人民国家運動 (People's National Movement, 略称PNM)  
党首 キース・ローリー (Keith Rowley)
- 統一国民会議 (United National Congress, 略称UNC)  
党首 カムラ・パサード＝ビセッサ (Kamla Persad-Bissessar)
- 人民会議 (Congress of the People, 略称COP)  
党首 キャロリン・シーパサード＝バチャン (Carolyn Seepersad-Bachan)

### 5. 行政

#### a. 中央

議院内閣制をとっており、下院の多数党の党首が大統領により首相に任命され政権を担当します。首相は上下両議員の中から閣僚を指名し、これを大統領が任命します。

(別添「トリニダード・トバゴ内閣閣僚名簿」参照)

#### b. 地方

国土が小さいこともあり、伝統的に中央集権型の政治体制がとられてきていましたが、近年は地方自治の領域が拡大しつつあります。行政単位としては8つの郡 (county) と14の自治体 (corporation) の並存により全国がカバーされています。地方議会議員 (計124議席) の任期は3年で、18歳以上の住民による直接選挙で選ばれます。前政権による地方政府改革法案の成立に時間を要したため、地方選は2003年を最後に、任期満了を迎えた2006年から延期されていましたが、2010年7月によりやく実施され、134議席のうち、PPが97議席を獲得しました。

その後2013年10月の地方選では、136議席のうち、PNMが85議席を獲得しました。

トバゴ島については、トリニダード島と比較して低開発地域であり、自治権および予算の配分を巡って中央政府との間に確執があります。そのため、トバゴ議会法（1980年制定）により他の地方自治体よりも大きな自治権を与えられたトバゴ議会（Tobago House of Assembly）が設立されています。12議席が直接選挙によって選ばれ、任期は4年、議長は議会の多数党の指導者が選出されます。

## 6. 司法

トリニダード・トバゴの司法制度は

- ・ 簡易裁判所である治安判事裁判所（Magistracy）
- ・ 高等裁判所（High Court of Justice）
- ・ 控訴裁判所（Court of Appeal）
- ・ 最高裁判所（Supreme Court of Justice）
- ・ 英国枢密院（Privy Council）

から構成されています。

なお、英国枢密院の死刑廃止ガイドラインを不服とする英連邦カリブ諸国は、ポート・オブ・スペインに裁判所を構えるカリブ司法裁判所（Caribbean Court of Justice: CCJ）を支持し、2005年4月15日をもって CCJ が英国枢密院に代わる最上級裁判所およびカリコム単一市場経済の紛争処理機関として機能することになりました。但し、トリニダード・トバゴの最高裁判所としてCCJが機能するためには憲法改正の手続きが必要であり、今なお英国枢密院が機能しています。

## 7. 防衛・安全保障

陸軍、沿岸警備隊、空軍から成る国防軍が存在します。陸軍は戦闘大隊と支援大隊から構成されています。2005年には沿岸警備隊の一部であった航空団が空軍に昇格しました。兵役はありません。

1967年に米州機構（OAS）に加盟すると共に米州機構集団防衛体制下に入りました。近年は南米産麻薬の密輸ルートになっており、治安・安全保障上の最大の脅威と見なされています。

1996年には麻薬対策を目的として、米国との間に米国官憲の領海内での活動を認める海上協力協定が結ばれています。

## 8. 外交

トリニダード・トバゴはカリブ地域内では、ジャマイカと並ぶ域内大国として重要な役割を果たしています。対外政策の基軸は、欧米、特に米国との関係を重視しつつ、カリブ共同体（CARICOM）加盟国として、CARICOM での決定を尊重し、自国の判断を慎重に選ぶ傾向にあります。90年代から始まった地域主義の台頭に対応し、カリブ諸国も域内での経済統合を加速するとともに、域外に対して共通ポジションで臨む姿勢を強化しています。比較的穏健かつ現実的な外交路線を維持する

一方、キューバ、北朝鮮とも外交関係を有しています。

アジアについては、歴史的な繋がりが深いインドに加え、近年は中国との関係が急速に発展しています。2013年6月には、習近平中国国家主席が来訪、中国国家主席による初の英語圏カリブ諸国訪問が実現し、2018年5月にはローリー首相が中国を訪問しました。また、フィリピンとは出稼ぎ労働者の受入れを中心に関係を深めています。

ラテンアメリカ諸国に関しては、貿易関係を中心として関係を強化しており、近年は隣国のベネズエラのほか、経済成長が著しいブラジル、中米諸国をターゲットに経済外交を積極的に展開しています。

さらに、アフリカ諸国との関係強化を図るという観点から、南アフリカ、ナイジェリア及びウガンダに高等弁務官事務所を設置しました。

隣国バルバドスとは、トビウオ資源をきっかけに海洋国境紛争が起こり、2006年4月、同問題は国際海洋法裁判所で結審しましたが、紛争地域における漁業及び海洋資源に及ぶ権利については、未だに調整が続いています。

### III. 経済

#### 1. 概観

カリブ海地域最大の石油と天然ガス産出国であるトリニダード・トバゴは、観光業を主産業とする他のカリブ海諸国とは異なり、エネルギー産業及びエネルギー関連産業を中心に経済成長を遂げてきました。重点産業の開発、貿易・ビジネス法規の整備に取り組み、特に輸出量の2割以上を占める液化天然ガス（LNG）に関しては、官民一体となり天然ガス資源開発を含む更なる産業発展に力を入れています。同時に、産業の多角化を図るため、非エネルギー産業である観光、ICT、映画・音楽エンターテインメント、商船・ヨット、農業、海産食品、飲・食料、印刷・梱包等の分野の強化にも努めています。

#### 2. 近年のトリニダード・トバゴ経済

植民地時代には周辺の島国同様にサトウキビのプランテーションが広がっていましたが、エネルギー産業開発が進むにつれて砂糖産業は次第に衰退していきました。当初のエネルギー産業は石油を中心に発達し、現在はガスに重心を置いています。2000年代にはガス生産量が増加するなどエネルギー産業の発達が促進され、2008年には急速なインフレ、石油価格の高騰などを背景に、GDP 総額は前年比で約60億米ドル増加しましたが、その後、世界的な金融危機の影響を受け、2009年のGDP 総額は前年から約90億米ドル減少しました。2014年後半以降長期的に落ち込んだエネルギー資源価格安に加え、石油及びガス生産量の減少、それに伴う下流部門への供給量激減により、エネルギー関連歳入が急激に落ち込みました。それに伴い、上流部門への投資の減少、特に石油生産量減少による国営石油会社ペトロリン精油所の稼働率の大幅な低下、新規ガス田開発の停滞が発生しました。更に、建設業、金融サービス、貿易部門等の非エネルギー部門の不調及び継続す



る外貨不足によって全体的な成長は妨げられ、2016年には－6.0%のマイナス成長を記録するなど深刻な不況に陥りました。

2017年後期からは、国際原油価格の回復及び新規ガス田開発の活発化による下流部門の復調に後押しされ、長い不景気からの回復の兆しが見え始めました。2017年は引き続きマイナス成長であるものの、2018年の経済は、新規ガス生産の開始、原油価格の上昇、天然ガス部門からのロイヤルティー増加による政府税収入の回復及び非エネルギー部門の回復もありプラス成長の予想です。一方、ガス生産の上向きの動向と比較し、石油生産は引き続き停滞しており、ペトロリンは2018年8月にポイント・ア・ピア精油所の閉鎖及び大幅な雇用削減を発表し、11月末に同精油所を閉鎖しました。また、雇用削減策により解雇された非正規、正規含む労働者は5,000人を超え、依然としてエネルギー部門の動向が国家経済及び国家財政に大きな影響を与える経済構造となっています。今後は、中期的な財政の枠組及び非エネルギー部門を成長エンジンとする環境作り（外貨へのアクセス改善や公共投資の効率化向上など）によって商品価格の変動に影響を受けない経済構造を構築するとともに、予測困難なエネルギー価格の変動に備え、成長維持のための財政再建及び経済多角化が課題です。非エネルギー産業も成長過程にありますが、やはりエネルギー部門がトリニダード・トバゴ経済に与える影響は大きく、今後の国際市場の動きが注目されます。

表1 GDP 総額（単位：億米ドル）

| 年      | 2010   | 2011   | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   | 2016   | 2017    |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| GDP 総額 | 225.22 | 257.89 | 257.69 | 271.99 | 274.80 | 251.21 | 217.22 | 220.53* |

(\*推定値, 出所:IMF World Economic Outlook Database, May 2019)

表2 GDP 成長率（単位：%）

| 年   | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017  |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 成長率 | 3.5  | -0.2 | -0.7 | 2.3  | -1.3 | 1.9  | -6.5 | -2.0* |

(\*推定値, 出所:IMF World Economic Outlook Database, May 2019)

表3 インフレ率（消費者物価指数：年間平均）（単位：%）

| 年     | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018   |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| インフレ率 | 5.102 | 9.280 | 5.189 | 5.698 | 4.659 | 3.069 | 1.884 | 1.062* |

(\*推定値, 出所:IMF World Economic Outlook Database, May 2019)

表4 失業率の推移（単位：%）

| 年   | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 失業率 | 5.9  | 5.1  | 5.0  | 3.7  | 3.3  | 3.4  | 4.0  | 4.0  |

(出所:IMF World Economic Outlook Database, May 2019)

### 3. 産業

#### a. エネルギー産業

エネルギー産業は、天然ガスや石油化学製品生産を中心としてトリニダード・トバゴの経済を支えています。石油産業は1908年に開始されて以来、重点産業の1つとして位置づけられてきましたが、現在は天然ガス産業が石油産業を凌ぎ、天然ガスを利用した様々な下流部門産業の多角化を通じた発展を目指しています。国内の電力発電にもガスを利用しており、エネルギー産業は欧米諸国をはじめとする海外からの直接投資を多く集めていましたが、現在は停滞傾向にあります。

近年は原油生産量、ガス埋蔵量の双方が年々減少しています。原油生産については、採掘地域として伝統的な南部の陸上油田に加え、1980年代半ば以降はトリニダード島東部沖の海底油田の開発が進められてきましたが、2010年以降、減少傾向にあります。エネルギー省によれば、平均原油生産量は、2010年の日量約10万バレルから、2015年には日量7万8,656バレル、2016年には日量7万71バレルと減少し、2019年2月は日量5万9,836バレルまで落ち込みました。

天然ガス産業については、1975年の天然ガス産業開発の閣議決定を受けて以来、天然ガス田の開発が進められてきました。米国テキサス州を拠点とする石油コンサルタント会社 Ryder Scott の発表によれば、2014年の確認天然ガス埋蔵量は、11.5兆立方フィートでしたが、2015年には10.6兆立方フィートまで減少しています。政府は、財政インセンティブを小規模または重要性が低いガス田開発にも拡大すると同時に、エネルギー需要と供給の不均衡緩和に対する重要な供給源になり得る陸地、浅瀬、遠海での掘削に対して最適な財政制度を整備する等、エネルギー部門の課題に取り組んでいます。

TT における天然ガス生産量は、2010年の約43億立方フィートから2017年には33億立方フィートまで減少しています。この要因として、上流部門の投資不足、新規ガス田の探査・発見の低迷及び新規天然ガス・プロジェクトの失敗が挙げられます。また、低価格な米国シェールガスとの競争力の維持も困難のひとつです。このため、国内では天然ガス供給不足が深刻化しており、下流部門のプラントの操業停止が相次ぐなど、エネルギー関連企業に大きな損失を与えています。

一方、2017年から政府は新規事業開拓に注力しており、2017年にはbpTTのJuniperプロジェクト、トリニダード地域陸上ガス・コンプレッション(TROC)プロジェクト、bpTTとEOG Resources社の合併事業であるSercanプロジェクトの生産が開始され、2018年にはStarfishプロジェクト、Dolphinプロジェクト、Iguanaプロジェクト、2019年にはAngelinプロジェクトの生産が開始されました。また、2018年8月にベネズエラのドラゴン・ガス田からの天然ガス供給のための天然ガス輸送協定を締結し、日量1億5,000万立方フィート（日量3億立方フィートまで増加する可能性を含む）の輸送量を想定しています。

トリニダード・トバゴは、アンモニア輸出世界2位、メタノール輸出世界2位、LNG輸出世界9位を誇っています<sup>xi</sup>。また天然ガスの西半球最大の輸出国です。特にLNGは主要な輸出品目であり、エネルギー省によれば天然ガスの半分以上がLNGとして精製されています。2000年代後半には

<sup>xi</sup> BP Statistical Review of World Energy 2018

米国へ LNG 生産量の大半を輸出していましたが、近年シェール革命により対米 LNG 輸出量は大幅に減少しました。現在は主にアルゼンチン、ブラジル等の南米諸国に輸出しています。しかし米国の需要低下にかかわらず、近年のヨーロッパ及び日本を始めとするアジアでは LNG 需要が高い傾向にあることから、今後の流れが注目されています。また、パナマ運河の拡張により、市場の拡大も期待されています。

日本企業もトリニダード・トバゴのエネルギー産業に参入しています。2007年には、丸紅株式会社がカリブ地域4か国における持株会社（在米国）、丸紅カリビアンパワーホールディングス（MCPH 社）を設立し、トリニダード・トバゴの電力需要の80%を供給するパワージェン社の資産の39%を保有しています。さらに現在、三菱コンソーシアム（三菱商事、三菱ガス 化学、三菱重工、トリニダード・トバゴ企業のマッシー社等）により、メタノール年間生産能力100万トン、ジメチルエーテル（DME）年間生産量10万トンの製造事業開始に向けたプロジェクトが進行中です。2015年9月にはエネルギープラント建設鉄入れ式が行われました。2016年8月に事業の修正契約書への署名が行われた後、建設サイトでは工場建設作業が進められています。2018年1月、一部労働者のストライキ等により建設作業が一時停止しましたが、プラントは、2019年以内に完成する予定です。同プロジェクトは、約10億米ドルの投資事業であり、さらに工場建設予定地であるトリニダード島南西部の発展や下流産業の活性化も見込まれていることから、経済界から注目されています。

現在、石油・ガス部門からの税徴収の制度構築及び税収入漏れを防ぐ税制改革が進められており、これらの施行及び関係当局の迅速な設立が求められています。

#### **b. 非エネルギー産業**

エネルギー産業の更なる発展を目指す一方、経済多角化を目的とした非エネルギー産業の強化も重要な課題です。工業化政策の下に運営されていた製造業から金融業、農業にわたる国営企業は1933年以降の政府方針により順次民営化が進められ、製造業は、外資の参入などもあり次第に競争力をつけ、1990年代半ば以降再び拡大しました。主に国内及びカリコム諸国向けに食品、清涼飲料水、繊維、セメント、空調機器などを生産しています。

また、ICT 産業の育成を目標に、タマナ地区には非エネルギー産業団地となるタマナ・インテックパークを設立し、日本企業を含む外国企業からの投資を誘致しています。

観光業の強化も課題とされており、農業、サービス、軽製造業との連携が重要とされていますが、トリニダード・トバゴにおける観光振興政策は一貫性を欠いており、他のカリブ諸国に対し観光地としての優位性を確保できていません。特に、空港、ホテル等の観光インフラの整備及びトバゴ島へのフェリー輸送の改善が急務となっています。

#### **4. 金融・財政**

通貨はトリニダード・トバゴ中央銀行が発行するトリニダード・トバゴ・ドル（TT ドル）を使用しています。1993年の変動相場制導入以来、中央銀行による市場介入等もありつつ、対米ドルレ

ートは1米ドル6TT ドル程度で比較的安定していましたが、最近是对米ドルの価値を下げており、2015年12月から2016年12月の間に5.44%価値を下げ、1米ドル6.43TT ドル～6.78TT ドルになりました。2019年5月現在、1米ドルは約6.774TT ドルです。

1993年以降、構造調整政策の一貫として国営企業の民営化、政府保有株の売却等を経て、その後はエネルギー産業の好況にも支えられたことから財政状況は比較的安定していましたが、しかし、エネルギー収入を背景とした広範な補助金の支出や多くの政府系企業における放漫な経営並びに2014年夏以降の石油価格の急落及び原油・ガス生産量の減少によるエネルギー歳入の大幅な落ち込みにより、及び国営企業の債務が重なり、財政状況が大きく悪化しました。また、主要な外貨獲得部門であるエネルギー産業の落ち込み等による外貨不足が深刻化しており、そのアベイラビリティの不確実性と更なる下落への懸念が、米ドルの買いだめや市場の不安定性を引き起こし、外貨を必要とする企業にとって死活問題となっています。2018年は同産業の回復に伴い緩和される見込みであるものの、過大な外貨需要によって市場は不安定な状況が続く見込みです。財政上の課題として、2009年より継続的に続く財政赤字、原油価格の下落への対応、質の良い経済統計の欠如、中期的財政枠組み及び債務管理戦略の構築に加え、原油価格変動の影響を最小限に抑える多角化経済の確立が挙げられます。

財政再建措置は実施されているものの、賭博税、歳入局(RA)、固定資産税の再導入等の歳入改革の法整備は遅れているため、これらの整備が喫緊の課題です。

表5 公的債務対GDP比(単位: %)

| 年    | 2011   | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   | 2016   | 2017   | 2018   |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 債務割合 | 28.926 | 24.579 | 24.779 | 23.592 | 27.230 | 37.836 | 43.255 | 45.310 |

(出所: IMF World Economic Outlook Database, May 2019)

## 5. 経済統合

トリニダード・トバゴは、カリコム共同体(CARICOM)に加盟している14か国1地域の1つの国です。他のカリコム加盟国と共に、カリコム単一市場・経済(CSME)を推進しており、バハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間(12か国)では単一市場(CSM)が2006年に開始されました。2007年10月から、アンティグア・バーブーダ議会が特定技術専門職労働者のカリコム域内自由移動を承認したことでカリコム単一市場が成立し、域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合はゼロ関税です。対外関税は、産業製品に対しては20%、農作物に対しては45%を上限としています。単一経済(CSE)については早期の開始を目指していますが、実現は難しいとされています。

カリコム及びカリブ諸国連合(ACS)を通じて、南米南部共同市場(MERCOSUR)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、2011年にラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASからアメリカ及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治・経済・社会・文化の側面の統合を長期目標に掲げています。

貿易面では、カリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名している他、対カナダ貿易開発協定の締結を見込んでいます。二国間では、米国、カナダ、英国、ドイツとの間で課税条約、また、米国、カナダ、英国、スイス、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ、キューバ、インド、中国、韓国との間で投資保護若しくは投資協定を締結しています。

## 6. 貿易

貿易収支は恒常的に輸出額が輸入額を上回り黒字を記録しています。主な輸出品目は、液化天然ガス（LNG）、アンモニア、ガスオイル、メタノール等のエネルギー関連製品です。主な輸入品目は、製造業関連品、原油等のエネルギー関連製品です。

表6 貿易収支(単位:億米ドル)

| 年   | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016(暫定値) |
|-----|------|------|------|------|------|-----------|
| 輸出額 | 170  | 163  | 176  | 150  | 111  | 82        |
| 輸入額 | 92   | 99   | 100  | 86   | 86   | 94        |

(出所: Annual Economic Survey 2017 from Central Bank of Trinidad and Tobago)

表7 貿易相手国(地域)別貿易実績(2015年)

|   | 輸出     |        | 輸入    |        |
|---|--------|--------|-------|--------|
|   | 国名     | 構成比(%) | 国名    | 構成比(%) |
| 1 | 米国     | 41.7   | 米国    | 32.0   |
| 2 | EU     | 11.6   | ガボン   | 12.5   |
| 3 | アルゼンチン | 6.8    | EU    | 10.3   |
| 4 | コロンビア  | 4.1    | 中国    | 7.1    |
| 5 | ペルー    | 3.9    | コロンビア | 5.5    |

(出所: WTO Trade Profile)

## IV. 日本との関係

### 1. 政治・外交

日本は1962年8月31日、トリニダード・トバゴの独立と同時にトリニダード・トバゴを承認し、1964年5月22日に外交関係を樹立しました。1965年1月から在ベネズエラ大使が在トリニダード・トバゴ大使を兼任していましたが、1979年1月に在トリニダード・トバゴ大使館が開設されました。一方、トリニダード・トバゴ側は1971年11月から駐インド高等弁務官が駐日大使を兼任しています。

## 2. 貿易

日本・トリニダード・トバゴ間貿易は、日本への LNG 輸出増加に伴い、トリニダード・トバゴが黒字を記録することも度々見られ、一時貿易収支が均衡状態にありました。現在は、自動車・自動車関連製品の輸入量の増加に伴い、対日貿易収支は赤字です。主な対日輸入品は自動車や自動車関連製品、主な対日輸出品は有機化合物です。また、トリニダード・トバゴのカカオは高品質で有名であり、その一部が日本へ輸出されています。

<対日貿易> (単位：1,000 円)

(出所：財務省貿易統計；国別概況品別表 (2018 年))

| 輸入総額   | 16,398,551                                                | 輸出総額  | 14,429,794                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------|-------|-----------------------------------------------------|
| 主な輸入品  | 自動車 10,675,781<br>ゴム製品 (タイヤ・チューブ) 194,934<br>光学機器 165,796 | 主な輸出品 | 有機化合物 7,525,316<br>石油ガス 6,800,513<br>非鉄卑金属くず 24,871 |
| 対日貿易収支 |                                                           |       | -1,968,757                                          |

## 3. 開発協力 (研修員及び専門家については、2016 年度までの実績)

日本のトリニダード・トバゴに対する開発協力は、草の根・人間の安全保障無償資金協力 (草の根無償) と技術協力を中心に実施されてきました。草の根無償では、1999 年度以降、20 件実施されています。技術協力では、1975 年度以降、182 人の研修員を我が国に受け入れており、1987 年度以降、水産の専門家を中心に 70 人 (短期専門家を含む) が派遣されています。また、カリブ漁業開発訓練所 (CFTDI: Caribbean Fisheries Training and Development Institute) (TT 政府所管) において、技術協力プロジェクト「トリニダード・トバゴ漁業訓練計画」及び「トリニダード・トバゴ持続的海洋水産資源利用促進計画」が実施され、トリニダード・トバゴのみならずカリブ地域に裨益する広域プロジェクトとして、着実な成果をあげました。また、2009 年からは、「カリブ地域における漁業・水産業にかかる開発・管理マスタープラン開発調査」が 3 年間実施され、得られた成果を通じて同域内における水産資源の適切な資源管理手法の構築を支援しました。また、2019 年からは、「カリコム省エネルギー推進プロジェクト (広域)」により、対象国 (トリニダード・トバゴ、セントクリストファー・ネイビス、バルバドス、ジャマイカ) に対して、日本の技術・知見を活用した再生可能エネルギー及び省エネルギー導入にかかる技術協力が実施される予定です。

(参考：技術協力プロジェクト)

1996 年 4 月～2001 年 3 月 トリニダード・トバゴ漁業訓練計画

2001 年 9 月～2006 年 9 月 トリニダード・トバゴ持続的海洋水産資源利用促進計画

## 4. 要人往来

### a. 来訪

| 年      | 月   | 人          |
|--------|-----|------------|
| 1989 年 | 1 月 | 山下徳夫 衆議院議員 |

|       |     |                             |
|-------|-----|-----------------------------|
| 1996年 | 3月  | 三塚博 衆議院議員（2002年ワールドカップ招致活動） |
| 1999年 | 5月  | 亀谷博昭 農水政務次官                 |
| 2000年 | 9月  | 三浦一水 農水政務次官                 |
| 2001年 | 8月  | 山口泰明 外務大臣政務官                |
| 2006年 | 8月  | 猪口邦子 内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画）  |
| 2008年 | 6月  | 近藤基彦 衆議院議員                  |
| 2010年 | 12月 | 山花郁夫 外務大臣政務官                |
| 2013年 | 5月  | 城内実 外務大臣政務官                 |
| 2014年 | 7月  | 安倍晋三 総理大臣                   |
| 2015年 | 1月  | 宇都隆史 外務大臣政務官                |
| 2017年 | 7月  | 藺浦健太郎 外務副大臣                 |
| 2017年 | 8月  | 秋葉賢也 衆議院議員， 津島淳 衆議院議員       |

#### b. 往訪

| 年     | 月         | 人                                   |
|-------|-----------|-------------------------------------|
| 1974年 |           | ウィリアムズ首相                            |
| 1975年 |           | ウィリアムズ首相， マハビア商工大臣                  |
| 1978年 |           | マハビア石油鉱山大臣                          |
| 1985年 |           | チェンバース首相<br>マハビア外務大臣<br>モトレー商工大臣    |
| 1987年 |           | スダマ大蔵・経済担当大臣<br>モハメッド下院議長           |
| 1988年 |           | ゴードン工業・企業・観光大臣<br>ウィルソン財務・経済担当大臣    |
| 1989年 | 6月        | ウィルソン財務大臣                           |
| 1990年 | 5月        | ウィルソン財務大臣                           |
| 1991年 | 3月        | ウィルソン財務大臣                           |
|       | 4月        | ドゥークラン計画・動員大臣                       |
| 1993年 | 3月        | モトレー財務大臣                            |
| 1994年 | 12月       | セイス計画・開発大臣                          |
| 1999年 |           | マックリー国会議長                           |
| 2005年 |           | カミル・ロビンソニーレジス計画・開発大臣（IDB総会出席）       |
| 2010年 | 9月        | ランバチャン外務大臣（日・カリコム外相会議）              |
| 2012年 | 4月<br>10月 | グリフィス観光大臣<br>ドゥークラン外務大臣（世銀・IMF年次総会） |
| 2013年 | 11月       | ラムナライン・エネルギー大臣                      |
| 2014年 | 8月        | ダグラス芸術・多文化大臣                        |
| 2015年 | 3月        | アルフォンソ国家安全保障大臣（第3回国連防災世界会議）         |
| 2016年 | 4月        | ヤング首相府付国務大臣（司法長官付大臣兼法務大臣）           |

#### 5. 文化・人的交流

日本はトリニダード・トバゴに対し、1992年度に国立美術博物館に対する保存・展示機材（3,900万円）、2000年度に国立高等教育院に対する LL 機材（3,010万円）の文化無償資金協力を実施しています。また、これまでに、西インド諸島大学語学センター等に対する日本

語教材寄贈計１０件、西インド諸島大学セント・オーガスティン校等に対する図書寄贈計８件等が実施されています。

最近の主要な文化事業は次のとおりです。

| 年     | 月                                        | 内容                                                                                                               |
|-------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ２００５年 | ３月                                       | 和食デモンストレーション                                                                                                     |
| ２００６年 | １月                                       | 折り紙デモンストレーション                                                                                                    |
| ２００７年 | ３月                                       | ジャズピアノ・コンサート                                                                                                     |
|       | ４月                                       | 剣道デモンストレーション                                                                                                     |
| ２００８年 | ３月                                       | 和食デモンストレーション                                                                                                     |
|       | ９月                                       | 巡回展「武道の精神」                                                                                                       |
| ２００９年 | １１月                                      | 日本文化祭（西インド諸島大学）                                                                                                  |
| ２０１０年 | ３月                                       | 和食デモンストレーション                                                                                                     |
|       | ５月                                       | 日本文化展示会                                                                                                          |
|       | ９月                                       | 邦楽公演（琴・和太鼓）                                                                                                      |
| ２０１１年 | １１月                                      | 邦楽公演（和太鼓、津軽三味線）                                                                                                  |
| ２０１３年 | １月                                       | 邦楽公演（和太鼓）                                                                                                        |
| ２０１４年 | ２月<br>２月<br>７月<br>７月<br>９月<br>１０月<br>１２月 | 邦楽公演（琴・チェロ）<br>武道デモンストレーション<br>和太鼓ミニコンサート<br>日本カレンダー展示会<br>日本アニメ上映会<br>林英哲・英哲風雲の会 和太鼓コンサート<br>寿司レクチャー・デモンストレーション |
| ２０１５年 | ３月<br>４月                                 | UWIオープンハウスにおける日本文化紹介<br>着物レクチャー・デモンストレーション                                                                       |
| ２０１６年 | ３月～                                      | 日本のテレビ番組放映（ドラマ「カーネーション」。<br>２０１７年３月放映終了。）                                                                        |
| ２０１７年 | １１月<br>３月～<br>１１月                        | 日本映画祭<br>日本のテレビ番組放映（アニメ「宇宙兄弟」及び<br>新海誠監督４作品）<br>日本文化紹介展                                                          |
| ２０１８年 | ３月<br>３月～<br>８月                          | 和食紹介<br>日本のテレビ番組放映（ドラマ「あさが来た」及びア<br>ニメ「ブラック・ジャック」「火の鳥」）<br>日本語弁論大会                                               |
| ２０１９年 | ３月                                       | 日本映画祭                                                                                                            |

その他の人物交流事業として、平成８年度若手外交官招へいで１人、平成１６年度～同３０年度 JET プログラムで計１５１人、文部科学省国費外国人留学生（研究留学生）で計１９人、カリコム若手外交官招へいで５人が訪日している他、報道関係者招聘、オピニオン・リーダー招聘、ＴＶチ



ーム招待等の様々な招聘事業が実施されています。

## 6. 在留邦人

2019年5月現在の在留邦人は120人です。

## V. 旅行者のために

### 1. 時差

トリニダード・トバゴは、ベネズエラと同じタイムゾーンに属し、グリニッジ標準時間とはマイナス4時間の時差があります。従って、日本との時差はマイナス13時間です。米国夏時間実施時（4月の第1日曜日の午前2時から、10月最終日曜日の午前2時まで）には、ニューヨーク、マイアミとの時差はなくなりますが、米国標準時にはプラス1時間となります。

### 2. 通貨・両替

通貨はトリニダード・トバゴ・ドル（TT\$）、補助単位はセント（¢）（TT\$1=100¢）です。紙幣はTT\$1、5、10、20、50、100の5種類、硬貨は1、5、10、25¢の4種類あります。

US\$からTT\$への両替は、銀行、両替所、ホテルのフロント等でできます。主要なクレジットカード（VISA、MASTER CARD、AMERICAN EXPRESS）はホテル、レストランをはじめショッピングセンター、スーパー等殆どの場所で使用できます。JCBカード、日本円は通用しません。

### 3. 税金・チップ

物やサービスには12.5%の付加価値税（VAT）が加算されます。ホテルの宿泊料金にはホテル税10%及びサービス料10%が、レストランではVAT12.5%及びサービス料10%が加算されます。出国の際の空港使用料は航空券に含まれています。

トリニダード・トバゴではチップの習慣は基本的にありませんが、ホテルのポーターやボーイへチップを与えるのは常識となっています。チップの相場はバッグ1つにつきTT\$5です。空港でポーターに荷物を運んでもらう場合、スーツケース1つにつきTT\$5で、料金表が空港内に掲示されています。

### 4. 電話

公衆電話は25¢硬貨を使用するかスーパーマーケット、雑貨店、郵便局等でテレホンカードを購入して使用できますが、携帯電話が普及しているため、公衆電話はホテルや空港を除くとほとんど見かけることはありません。

国際電話は、最初に011（但し国番号が1の地域〔北米・カリブ〕は不要）、次に国番号、先方の電話番号の順でダイヤルします（日本の場合、市外局番先頭の0を取ります）。

(例) トリニダード・トバゴから日本にかける場合

0 1 1 - 8 1 (日本の国番号) - 0を除く相手先番号

## 5. 電圧・プラグ・水道

電力は米国と同様、115ボルト、60ヘルツです。

プラグの形は日本のものと同じ形状であり、日本製製品は、変圧器なしでもほとんど問題なく使用することができます。しかし、僅かとはいえ電圧数が違うため、心配であれば、日本製の炊飯器やオーブンプレート等、加熱性の電化製品には変圧器を使用すると確実です。

水道水の飲用は奨励できません。スーパー等でミネラルウォーターを購入するか、浄水器を取り付けると良いでしょう。

## 6. 2018年の祝祭日

多様な人種、文化を反映し、トリニダード・トバゴの祝祭日は、インド人やアフリカ系黒人、キリスト教、ヒンズー教、そしてイスラム教を対象に設定されており、それらの祝祭日にあわせ、各地でイベントが催されます。

|        |                                  |               |
|--------|----------------------------------|---------------|
| 1月 1日  | NEW YEAR'S DAY                   | 元旦            |
| 3月4日   | CARNIVAL MONDAY                  | カーニバル         |
| 3月5日   | CARNIVAL TUESDAY                 | カーニバル         |
| 3月30日  | SPIRITUAL BAPTIST LIBERATION DAY | バプティストの日      |
| 4月19日  | GOOD FRIDAY                      | キリスト受難の日      |
| 4月22日  | EASTER MONDAY                    | イースター         |
| 5月30日  | INDIAN ARRIVAL DAY               | インド人到来記念日     |
|        |                                  |               |
| 6月 5日  | EID-UL-FITR                      | イード・アル・ファトゥール |
| 6月19日  | LABOUR DAY                       | 労働者の日         |
| 6月20日  | CORPUS CHIRISTI                  | 聖体の祝日         |
|        |                                  |               |
| 8月 1日  | EMANCIPATION DAY                 | 奴隷解放記念日       |
| 8月31日  | INDEPENDENCE DAY                 | 独立記念日         |
| 9月24日  | REPUBLIC DAY                     | 共和国記念日        |
| 10月28日 | DIVALI                           | ディバリ          |
| 12月25日 | CHRISTMAS DAY                    | クリスマス         |
| 12月26日 | BOXING DAY                       | ボクシングデー       |

## 7. 交通事情

トリニダード・トバゴでの運転は、日本と同様、右ハンドル、左車線通行です。

### a. 陸路

トリニダード・トバゴには鉄道網はなく、交通手段は自家用車または、タクシー、マキシー・タクシー及びバスとなります。

### ● タクシー

ナンバープレートが「H」で始まる車が乗合タクシーです。乗合タクシーは頻繁に走っており、どこでも手を挙げれば容易に拾うことができます。料金は安いものの、車内強盗等の危険性もあるため、利用はお勧めしません。

やや割高ですが、タクシー会社に電話をかけて呼ぶのが最も安全です。メーター制はないので事前に料金を聞き、支払いはTTドルかUSドルかを確認しておくことが望ましいです。

### ● マキシ・タクシー

白地のワンボックスカータイプで、側面に、行き先によって異なる色のストライプが施されています。

### ● バス

バスは主要都市間を結んでいます。路線図の類がなく、事前に切符を購入しておかなければならないこともあり、旅行者にはかなり不便に感じられます。また、時間が不規則です。

#### b. 海路

トリニダード⇄トバゴ間は、毎日フェリーが運行しています。Conventional ferry（所要時間4時間半）とFast ferry（所要時間2時間半）の2種類があります。フェリーには車を持ち込むことができ、料金も手軽であることから、最近では飛行機よりも人気が増してきています。乗り場は、トリニダードがダウンタウン近くの港（POS 地図参照）、トバゴがスカボロー港となっています。車のチェックインは出港3時間前で、乗客のチェックインは出港2時間前です。

#### c. 空路

トリニダード⇄トバゴ間は、Caribbean Airlines が毎日数便運行しています。所要時間は約30分。

## 8. 治安

トリニダード・トバゴではけん銃等を使用した凶悪犯罪が頻発する等治安悪化の一途をたどっており危険です。

2018年には517件（人口10万人あたり約38件）の殺人事件が発生し、その約8割で銃器が使用されています。その背景には、密輸による銃器の蔓延やギャング同士の抗争事件が激化したことが考えられますが、流れ弾で死亡した事件（首都圏内の行楽地における銃乱射事件等）や、人違いで殺害された被害者も多数います。

強盗等の発生は増加傾向にあり、2018年には強盗が3239件（前年比11%増、人口約100倍の日本より多発）発生しており、路上、行楽地、住宅酒場、店舗、乗り合いタクシー内等と様々な場所において、けん銃等で武装した者が犯行に及んでいます。また、自動車強盗が増加傾向にあり、乗降時に限らず無理に停車させられて襲われる危険もあります。

従来は平穏であった地域での被害が増加し、更には、2016年2月に開催されたカーニバル期間に日本人女性が殺害された事件、2017年には中国大使館勤務の中国人が身代金誘拐事件に遭う等、アジア系住民を狙った殺人、誘拐、強盗等の凶悪犯罪も頻発しています。

首都のダウンタウン地区は、ギャング同士の抗争による銃撃戦が頻発しており、また、現地人も注意する治安の悪い地域とも近接しているので、地理などがよく分からないうちは人通りや周囲の雰囲気にも十分に注意し、いずれの地域においても、特に夜間の不用意な外出は控えるようにしましょう。また昼夜を問わず人通りの少ないところ、暗いところは避けてください。

基本的な防犯意識を心得ておくことはもちろんのこと、最近の犯罪傾向から、けん銃を使用する事件が広範囲に発生しており、国内のどの地域においても、昼夜を問わず注意が必要です。近年では首都近郊の行楽地や通勤時間帯の幹線道路等において銃撃戦が発生して一般人が犠牲となっており、いつ、どこで何が起こるか分からない治安情勢となっています。トリニダード・トバゴでは、2005年に首都において爆発事件が発生するなどしていましたが、ここ数年テロ事件は発生していません。しかし、ISILの戦闘に参加する目的で中東地域に渡航したトリニダード・トバゴ国籍者が複数名おり、その一部は既に帰国していると言われています。2016年にはISILがトリニダード・トバゴでのテロを呼び掛け、実際に2018年2月には、カーニバルを狙ったテロ攻撃を計画していたとして複数名の者が逮捕される等、テロの可能性を否定できません。（現在、渡航情報「十分注意」が発出されています。）

## VI. 観光

### 1. ポートオブスペイン市内観光

#### ❖ クイーンズ・パーク・サバンナ (Queen's Park Savannah) 周辺と壮麗なる7軒

カーニバル等の催し会場、サッカー、クリケット、ラグビー等の練習場に使用されているサバンナは、1817年英国総督のラルフ・ウッドフォードが、かつてサトウキビのプランテーションであった場所を市民の憩いの場として開設したものです。公園は1周が約3.8kmあり、朝夕は多くの市民がウォーキング／ジョギングを楽しんでいます。公園の周りにはココナッツをはじめ、オイスター・カクテル、ポロリ（一口サイズの揚げドーナツ）、コーンスープ、ベーク・アンド・シャーク等の露天が並びます。

公園の西側には **Magnificent Seven** と呼ばれる、壮麗なる7軒の建築物が並びます。うち最も南に位置する **Queen's Royal College** は1904年に建てられたルネサンス様式の高等学校です。トリニダード・トバゴで最も優秀な男子校であり、初代首相エリック・ウィリアムズや、ノーベル文学賞受賞者V. S. ナイポールの母校でもあります。南から6番目の建物は **Whitehall**：首相府です。

公園の北側には**大統領官邸**があり、その厳かな建築物と、美しい庭園に目を惹かれます。大統領官邸の隣には**植物園**と**動物園**があり、週末には家族連れで賑わいます。

公園の南側には、**国立博物館** (National Museum and Art Gallery) があり、考古学の史料から現代の石油産業に関わるもの、カーニバルのコスチューム等トリニダード・トバゴ

についての知識を深めることができます。

#### ❖ ジョージ砦 (Fort George)

市内の高台にある英領時代初期に建てられた砦跡です。現在も砲台や監視所が残っており、市内と海を一望することができます。特に夕暮れ時の景色はすばらしいものがありますが、日没後は治安の悪化に注意が必要です。

#### ❖ ウッドフォード広場 (Woodford Square) とその周辺

Frederick St.と Abercromby St.に挟まれたダウンタウンの中心にある広場で、初代首相エリック・ウィリアムズが街頭演説を繰り返した場所として有名です。広場の周辺は昼間から人通りが多く、市民の憩いの場となっています。周りには西側にレッド・ハウス（国会議事堂：90年のクーデターの舞台となった）、北側にシティホール、裁判所、南側に大聖堂（Holy Trinity Cathedral）があります。また、レッド・ハウスの裏にある歴史的建造物の警察署（1877年建造。クーデターの際に焼失）も一見の価値があります。

#### ❖ 独立広場 (Independence Square) とその周辺

ダウンタウンの中心、中央分離帯にある細長い広場が独立広場です。中央銀行、財務省、各国大使館等が入っているツインタワーをはじめ、ファーストフードレストラン、航空会社、バスターミナル、乗合タクシーの発着所等があり、常に人と車で賑わい、市民生活の一端がうかがえます。広場の中心には、トリニダード・トバゴの建国の父であるシプリアニの像が建っています。

広場東側一角にあるローマカトリック大聖堂は石造りの見事な教会で、一見の価値があります。広場の西側に新たに整備された歩道は、トリニダード・トバゴ出身のクリケット選手で世界記録保持者のブライアン・ララの名にちなんで、ブライアン・ララ・プロムナードと呼ばれています。

## 2. エクスカーション

### a. トリニダード島

#### ● マラカス・ビーチ

トリニダード島で最も人気のあるビーチです。名物の「ベーク・アンド・シャーク（鮫のサンドイッチ）」が味わえます。

#### ● 赤い鳥見学ツアー



トリニダード・トバゴ観光の目玉と言えるツアーです。ボートに乗って熱帯雨林の茂る湿地帯を進み、国鳥に指定されている「赤い鳥（Scarlet

Ibis)」を観察します。夕方、巣に戻る鳥を観察するため、午後4時の出船となります。ベスト・シーズンは11月から3月にかけてです。

- **ASA Wright 自然センター**

トリニダード・トバゴは、野鳥の種類が豊富であり、この自然センターでは数種類のハチドリのご餌付けが行われています。ガイドがジャングルのような植物園内を案内してくれます。所要時間は約2時間で、ガイドツアーへの参加は予約が必要です。

- **ピッチ・レイク**

世界でも珍しい天然アスファルトを見学することができます。

- **ポイント・リサス工業地**

石油産出国であるトリニダード・トバゴにおいて、石油精製工場や天然ガスの精製工場等が立ち並ぶ工場群となっています。

- **トリニダード北東海岸**

サリビアから始まる沿岸をトコヤ、サーファーで賑わうサンスルーシ、グランド・リビエラへとほとんど手の入っていない海岸線を楽しむことができます。

- **オサガメ観察**

トリニダード島の北西海岸ではオサガメの産卵を間近で見ることができます。シーズンは5～8月で、シーズン前半には親亀が産卵のために砂浜に戻り、産卵を終えてまた海に戻っていく姿が、シーズン後半には卵から孵化し、海へと巣立っていく子亀を見ることができます。

- b. **トバゴ島**

- **ブッコー・リーフ**

トリニダード・トバゴが誇る美しい珊瑚礁です。ガラス底のボートで珊瑚礁や魚たちを見るツアーもあります。シュノーケリングも可能です。海の中にできた自然のプール「ナイロン・プール」も見逃せません。

- **アーガイルの滝**

熱帯雨林の中を、植物や、鳥、虫などを観察しながら進むとアーガイルの滝に行き着きます。滝壺では水浴を楽しめます。

## VII. 宿泊

### 1. 一般事情

トリニダードのホテルはその質の割には料金が高く、一泊 US\$ 100 以下のホテルを見つけることは困難です。ゲストハウス等に宿泊すれば安くは収まりますが、セキュリティが万全でない宿舎もあるので注意が必要です。少しでも不安を感じたところには泊まらないようにすることが賢明です。

トバゴ島のホテルは、比較的对価に見合ったサービスを期待することができます。料金に全てのサービスが含まれているオール・インクルーシブのホテルもあり、リゾート気分を味わうことができます。

毎年2月頃に開催されるカーニバルの前後は海外からの観光客で溢れるため、ホテルの料金も通常の3～5倍近くに値上がりする上、1泊や2泊の予約は受け付けず、カーニバルパッケージ（5夜連泊など）でないと予約ができないケースもあります。カーニバルシーズンはホテル料金の高騰にもかかわらず、主要ホテルはほぼ全て予約で埋まります。

### 2. ホテルリスト

| ホテル（ポートオブスペイン）                      |                                      |                      |                                                                                                                      |
|-------------------------------------|--------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ホテル名                                | 所在地                                  | 電話                   | ウェブサイト                                                                                                               |
| Courtyard by Marriott               | Invaders Bay,<br>Audrey Jeffers Hwy. | 627-5555             | <a href="http://www.marriott.com/poscy">www.marriott.com/poscy</a>                                                   |
| Hilton Trinidad & Conference Centre | Lady Young Rd.                       | 624-3211             | <a href="http://www.hiltontrinidadhotel.com">www.hiltontrinidadhotel.com</a>                                         |
| Hyatt Regency Trinidad              | 1 Wrightson Rd.                      | 623-2222             | <a href="http://www.trinidad.hyatt.com">www.trinidad.hyatt.com</a>                                                   |
| Kapok Hotel                         | 16-18 Cotton Hill, St. Clair         | 622-5765             | <a href="http://www.kapokhotel.com">www.kapokhotel.com</a>                                                           |
| The Normandie Hotel                 | 10 Nook Ave., St. Ann's              | 624-1181             | <a href="http://www.normandiett.com/">www.normandiett.com/</a>                                                       |
| Radisson Trinidad                   | Wrightson Rd.                        | 625-3366             | <a href="http://www.radisson.com/port-of-spain-hotel-tt/ttosptr">www.radisson.com/port-of-spain-hotel-tt/ttosptr</a> |
| ゲストハウス（ポートオブスペイン）                   |                                      |                      |                                                                                                                      |
| ゲストハウス名                             | 所在地                                  | 電話                   | ウェブサイト                                                                                                               |
| Par-May-La's Inn                    | 53 Picton St., Newtown               | 628-2008<br>628-5321 | <a href="http://www.parmaylas.com">www.parmaylas.com</a>                                                             |
| Sundeck Suites                      | 42-44 Picton St., Newtown            | 622-9560             | <a href="http://www.sundecktrinidad.com">www.sundecktrinidad.com</a>                                                 |
| ホテル（空港周辺）                           |                                      |                      |                                                                                                                      |
| ホテル名                                | 所在地                                  | 電話                   | ウェブサイト                                                                                                               |
| Holiday Inn Express Hotel & Suites  | No.1 Exposition Drive, Trincity      | 692-4557             | <a href="http://www.hiexpress.com/trincitytt">www.hiexpress.com/trincitytt</a>                                       |
| ゲストハウス（空港周辺）                        |                                      |                      |                                                                                                                      |
| ゲストハウス名                             | 所在地                                  | 電話                   | ウェブサイト                                                                                                               |
| Airport Inn                         | Factory Rd., Golden Grove, Piarco    | 669-8207<br>678-6327 | <a href="http://www.airportintrinidad.com">www.airportintrinidad.com</a>                                             |

## IX. トリニダード・トバゴに関するウェブサイト（英語）

- ・トリニダード・トバゴ政府  
<http://www.ttconnect.gov.tt>
- ・トリニダード・トバゴ観光省  
<http://tourism.gov.tt/>
- ・Trinidad & Tobago The True Caribbean - 観光情報  
<http://gotrinidadandtobago.com/>
- ・Discover Trinidad and Tobago - 観光情報  
<http://www.discovertnt.com/>
- ・Visit Tobago - トバゴ観光情報  
<http://www.visittobago.gov.tt/>
- ・Tobago Naturally - トバゴ観光情報  
<http://www.tobagohoteltourism.com/>
- ・My Tobago - トバゴ観光情報  
<http://www.mytobago.info/>

## X. 主要電話番号

|                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 警察                       | 999                   |
| 救急・消防                    | 990                   |
| 電話番号照会                   | 6411                  |
| 沿岸警備隊                    | (1-868) 634-4440      |
| ピアルコ国際空港                 | (1-868) 669-4258      |
| St. Clair Medical Center | (1-868) 628-1451／8615 |
| 観光案内所                    | (1-868) 623-1932      |
| 日本国大使館                   | (1-868) 628-5991～3    |



付録

トリニダード・トバゴ閣僚名簿  
(2015年9月11日組閣)

2018年9月現在

1 閣僚

PNM: 人民国家運動

|      |                                                                                                                                                    |                                                                        |                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------|
| (1)  | 首相<br>Prime Minister                                                                                                                               | キース・クリストファー・ロ<br>ーリー<br>Dr. the Honourable Keith<br>Christopher ROWLEY | 下院議員<br>PNM    |
| (2)  | 首相府付国務大臣<br>Minister of State in the<br>Office of the Prime Minister                                                                               | アヤンナ・ウェブスター＝ロ<br>イ<br>The Honourable Ayanna<br>WEBSTER-ROY             | 下院議員<br>PNM／女性 |
| (3)  | 司法長官<br>Attorney General                                                                                                                           | ファリス・アル＝ラウイ<br>The Honourable Faris AL-RAWI                            | 下院議員<br>PNM    |
| (4)  | 国家安全保障大臣兼情報大臣<br>兼首相府付大臣<br>Minister of National<br>Security, Minister of<br>Communications and Minister<br>in the Office of the Prime<br>Minister | スチュアート・ヤング<br>The Honourable Stuart YOUNG                              | 下院議員<br>PNM    |
| (5)  | 司法長官・法務省付大臣<br>Minister in the Ministry of<br>the Attorney General and<br>Legal Affairs                                                            | フィッツジェラルド・ハイン<br>ズ<br>The Honourable Fitzgerald<br>HINDS               | 下院議員<br>PNM    |
| (6)  | 地域開発・文化・芸術大臣<br>Minister of Community<br>Development, Culture and the<br>Arts                                                                      | ナイアン・ギャツビー＝ドリ<br>二<br>Dr. the Honourable Nyan<br>GADSBY-DOLLY          | 下院議員<br>PNM／女性 |
| (7)  | 教育大臣<br>Minister of Education                                                                                                                      | アンソニー・ガルシア<br>The Honourable Anthony<br>GARCIA                         | 下院議員<br>PNM    |
| (8)  | 教育省付国務大臣<br>Minister of State in the<br>Ministry of Education                                                                                      | ロベル・フランシス<br>Dr. the Honourable Lovell<br>FRANCIS                      | 下院議員<br>PNM    |
| (9)  | エネルギー・エネルギー産業大<br>臣<br>Minister of Energy and Energy<br>Industries                                                                                 | フランクリン・カーン<br>Senator the Honourable<br>Franklin KHAN                  | 上院議員<br>PNM    |
| (10) | 外務・カリコム担当大臣兼国家<br>安全保障省付大臣                                                                                                                         | デニス・モーゼス<br>Senator the Honourable                                     | 上院議員<br>PNM    |

|         |                                                                                           |                                                                       |                |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------|
|         | Minister of Foreign and CARICOM Affairs and Minister in the Ministry of National Security | Dennis MOSES                                                          |                |
| ( 1 1 ) | 財務大臣<br>Minister of Finance                                                               | コルム・インバート<br>The Honourable Colm IMBERT                               | 下院議員<br>PNM    |
| ( 1 2 ) | 財務省付大臣<br>Minister in the Ministry of Finance                                             | アリソン・ウエスト<br>Senator the Honourable Allyson WEST                      | 上院議員<br>PNM／女性 |
| ( 1 3 ) | 保健大臣<br>Minister of Health                                                                | テレンス・デヤルシン<br>The Honourable Terrence DEYALSINGH                      | 下院議員<br>PNM    |
| ( 1 4 ) | 観光大臣<br>Minister of Tourism                                                               | ランダル・ミッチェル<br>The Honourable Randall MITCHELL                         | 下院議員<br>PNM    |
| ( 1 5 ) | 労働・小企業開発大臣<br>Minister of Labour and Small Enterprise Development                         | ジェニファー・バプティスト＝プリマス<br>Senator the Honourable Jennifer BAPTISTE-PRIMUS | 上院議員<br>PNM／女性 |
| ( 1 6 ) | 住宅・都市開発大臣<br>Minister of Housing and Urban Development                                    | エドモンド・ディロン<br>The Honourable Major General (Retired) Edmund DILLON    | 下院議員<br>PNM    |
| ( 1 7 ) | 計画・開発大臣<br>Minister of Planning and Development                                           | カミーユ・ロビンソン＝レジス<br>The Honourable Camille ROBINSON-REGIS               | 下院議員<br>PNM／女性 |
| ( 1 8 ) | 公益事業大臣<br>Minister of Public Utilities                                                    | ロバート・ル・ハント<br>Senator the Honourable Robert Le HUNTE                  | 上院議員<br>PNM    |
| ( 1 9 ) | 地方開発・地方自治大臣<br>Minister of Rural Development and Local Government                         | カジム・ホセイ<br>Senator the Honourable Kazim HOSEIN                        | 上院議員<br>PNM    |
| ( 2 0 ) | 社会開発・家族大臣<br>Minister of Social Development and Family Services                           | チェリー＝アン・クリックロウ＝コックバーン<br>The Honourable Cherrie-Ann CRICHLow-COCKBURN | 下院議員<br>PNM／女性 |
| ( 2 1 ) | 総務大臣<br>Minister of Public Administration                                                 | マーリーン・マクドナルド<br>The Honourable Marlene MCDONALD                       | 下院議員<br>PNM／女性 |
| ( 2 2 ) | スポーツ・青少年大臣<br>Minister of Sport and Youth Affairs                                         | シャムファ・クジョー<br>The Honourable Shamfa CUDJOE                            | 下院議員<br>PNM／女性 |
| ( 2 3 ) | 貿易・産業大臣<br>Minister of Trade and                                                          | ポーラ・ゴピ＝スクーン<br>Senator the Honourable Paula                           | 上院議員<br>PNM／女性 |

|      |                                                           |                                                           |             |
|------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------------|
|      | Industry                                                  | GOPEE-SCOON                                               |             |
| (24) | 公共事業・運輸大臣<br>Minister of Works and Transport              | ローハン・シナナン<br>Senator the Honourable Rohan SINANAN         | 上院議員<br>PNM |
| (25) | 農業・国土・漁業大臣<br>Minister of Agriculture, Land and Fisheries | クラレンス・ランバラット<br>Senator the Honourable Clarence RAMBHARAT | 上院議員<br>PNM |

## 2 政務官

|     |                                                                                             |                                                         |                |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------|
| (1) | 総務省付政務官<br>Parliamentary Secretary in the Ministry of Public Administration                 | マクシー・カフィー<br>The Honourable Maxie CUFFIE                | 下院議員<br>PNM    |
| (2) | 農業・国土・漁業省付政務官<br>Parliamentary Secretary in the Minister of Agriculture, Land and Fisheries | アビナッシュ・シン<br>Senator the Honourable Avinash Singh       | 上院議員<br>PNM    |
| (3) | 国家安全保障省付政務官<br>Parliamentary Secretary in the Ministry of National Security                 | グレンダ・ジェニングス＝スミス<br>The Honourable Glenda Jennings-Smith | 下院議員<br>PNM／女性 |

当館注：閣議に出席する閣僚は首相及び大臣であり，大臣は，首相の助言に基づき，上下院議員から選ばれ，大統領によって任命される（憲法第75条及び第76条に規定）

■ トリニダード・トバゴ地図



※出典：Worldatlas.com

## ■ ポートオブスペイン地図



当館管轄国と日本の貿易関係（2018年全期）

|            | アンティグア・<br>バーブーダ                                 | ドミニカ国                                                   | グレナダ                                           | セントクリストファー・<br>ネービス           | セントルシア                                         | セントビンセント                                                   | トリニダード・<br>トバゴ                                                        | ガイアナ                                                     | スリナム                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 対日輸入<br>総額 | 1,952,872<br>(1,643,207)                         | 823,199<br>(614,054)                                    | 1,011,447<br>(959,133)                         | 709,223<br>(868,431)          | 1,404,382<br>(1,458,200)                       | 859,042<br>(529,481)                                       | 16,398,551<br>(22,746,030)                                            | 5,596,838<br>(4,750,845)                                 | 7,456,479<br>(4,722,997)                                                              |
| 主要<br>輸入品目 | 自動車<br>1,858,627<br>ゴム加工材料<br>911<br>光学機器<br>234 | 自動車<br>619,655<br>事務用品<br>1,571<br>非金属鉱物製<br>品<br>1,389 | 自動車<br>926,982<br>非鉄金属<br>4,964<br>事務用品<br>618 | 自動車<br>631,505<br>ゴム製品<br>692 | 自動車<br>1,278,741<br>ゴム製品<br>885<br>光学機器<br>800 | 自動車<br>499,126<br>織物用糸及び<br>繊維製品<br>61,564<br>家具<br>31,920 | 自動車<br>10,675,781<br>ゴム製品(タイ<br>ヤ・チューブ)<br>194,934<br>光学機器<br>165,796 | 自動車<br>3,993,725<br>鉄鋼<br>395,476<br>医薬品<br>25,859       | 自動車<br>6,153,725<br>ゴム製品(タイ<br>ヤ・チュー<br>ブ)<br>154,031<br>その他の動<br>植物性原材<br>料<br>6,474 |
| 対日<br>輸出総額 | 683<br>(0)                                       | 39,104<br>(84,170)                                      | 1,181<br>(715)                                 | 3,266<br>(610)                | 2,784<br>(7,480)                               | 311,510<br>(346,589)                                       | 14,429,794<br>(13,468,481)                                            | 545,575<br>(675,370)                                     | 738,893<br>(653,584)                                                                  |
| 主要<br>輸出品目 | 電気計測機器<br>448<br>アルコール飲料<br>235                  | 衣類及び同付<br>属品<br>16,844<br>カカオ豆<br>6,592<br>たばこ<br>3,644 | 原動機<br>619<br>カカオ豆<br>562                      | 光学機器<br>2,864<br>一般機械<br>402  | アルコール飲料<br>1,038<br>美術品・収集品<br>及びこつとう<br>916   | 魚介類<br>305,432<br>電気機器<br>1,907                            | 有機化合物<br>7,525,316<br>石油ガス<br>6,800,513<br>非鉄卑金属くず<br>24,871          | 非鉄金属鉱<br>507,847<br>アルコール飲料<br>16,327<br>生きた動物<br>13,423 | 魚介類<br>718,579<br>木材<br>6,791<br>印刷機械及<br>び製本機械<br>4,447                              |
| 対日<br>貿易収支 | -1,952,189                                       | -784,095                                                | -1,010,266                                     | -705,967                      | -1,401,598                                     | -547,532                                                   | -1,968,757                                                            | -5,051,263                                               | -6,717,586                                                                            |

<単位> 1,000 円 / <出典> 財務省貿易統計: 国別総額表, 国別概況品別表( ) 年内総額